

## やましん歌壇掲載歌

毎月一度の投稿を始めて六年経過しその間に百十三首の選歌掲載（月平均

掲載率：約一（一首）となっております。

それらの中で写真短歌は四十三作品で約38%を占めております。

◎令和二年八月三十一日

佐藤幹夫選 戦時下の「欲しがりません」浮かびくる新生活のメディアの喧伝

◎令和二年八月三日

佐藤幹夫選 山の路日の射す片方にハルジオン蝶と戯れ我を誘う（\*）

井上管子選 白マスク一枚加わる衣更え初夏の風切り列をす自転車

大滝 保選 風そよぎ甘き香流るる山路にニセアカシアの大樹揺れおり

◎令和二年五月二十五日

井上管子選 露味噌は春の使いと立つ厨レシビ片手に男の一品

大滝 保選 コロナ禍にインバウンドの災いし拡散止まらぬ日本列島

◎令和二年四月二十七日

佐藤幹夫選 なごり雪「これがそうか」と呟けり妻も鎮く春の往還

◎令和二年三月三十日

井上管子選 脚本の台詞の間合いに仕組まれて際立つ沈黙饒舌凌ぐ

大滝 保選 凍てし道粉雪の下に隠れおり歩みは摺り足ゴミを出す朝

◎令和二年三月二日

佐藤幹夫選 薄墨の便りが届きました一つ住所録から友の名を消す

◎令和二年二月三日

佐藤幹夫選 ひたすらに我癒されし「白い森」おぐにの秋の懐深し（\*）

井上管子選 黄昏るる湖面に溶け込む秋の山墨絵にも似てこころ風ぐ時（\*）

◎令和元年十二月十六日

佐藤幹夫選 山もみじ夕影受けて色まさり映る湖面は合わせ鏡に（\*）

大滝 保選 ハイカーの標しるしならんと咲き並び山路を誘うりんどうの群れ（\*）（※）

## やましん歌壇掲載歌

（\*：「写真短歌」の作品） ※：山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠（2020年）

## やましん歌壇掲載歌

( \* : 「写真短歌」の作品 ) ※ : 山形県歌人クラブ第 38 集年刊歌集出詠 ( 2020 年 )

◎令和元年十一月十八日

佐藤幹夫選 寺の秋茶会の前の挨拶は仏縁地縁の訛り溢れて ( \* ) ( ※ )

井上管子選 風に乗り笛の音届く散歩道辿れば吹き手束屋に居り ( \* )

◎令和元年十月二十一日

佐藤幹夫選 足元に蚊遣り焚きつつ登り室の火入れ待ち居る室主ひとり ( \* )

大滝 保選 風鈴に虫の音加わりコンチエルト主役の代わりはや秋の風 ( ※ )

◎令和元年九月二十三日

井上管子選 十五歳父の遺骨を抱き帰る双葉町の墓に夏の日落ちき ( ※ )

◎令和元年八月二十六日

佐藤幹夫選 「寄り添う」の言葉の重さ比べ読む沖繩語る今朝の新聞 ( ※ )

大滝 保選 山あいのオープンガーデン風そよぐ鮮あざやぐ初夏を妻と頷うなてり ( \* ) ( ※ )

◎令和元年七月二十九日

阿部京子選 郭公の声のリレーに誘われ歩む山道こみどり萌黄

井上管子選 銀毫草朽葉押し分け林立てり過客を癒す山の辺の道 ( \* )

◎令和元年六月十一日

阿部京子選 石蹴りの筋跡避けて草むしる桜の蕾はころぶ公園 ( ※ )

選評 自身の、幼いころの思い出が脳裏を過って生まれた心配りであろう。

ごはん時に遊びを止めて帰った記憶。明日の続きの為に「避けて」が効いた。

大滝 保選 山里の田舎芝居の幕の下り夜の帳とばりに桜舞い散る ( \* ) ( ※ )

◎令和元年五月

井上管子選 政元が紙面に躍り朝の雪解けて路面は煌めく鏡

◎平成三十一年四月

阿部京子選 めぐり来る建国記念日新聞に是非論載りしも遙かとなりぬ ( ※ )

選評 皇国史観で教育を受け、戦後全てを否定されて戸惑った。四大節の一つ

「紀元節」を「建国記念日」と変えることに世論沸騰した頃への感慨を詠んだ。

大滝 保選 核を持つ国が他国へ求めたる放棄の論理に不条理覚ゆ ( ※ )

## やまの歌壇掲載歌

( \* : 「写真短歌」の作品 ) ※ : 山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠 (2020年)

◎平成三十一年三月

井上管子選 手織り機に横糸通す杼ひの如く人を繋ぎてまちづくりなる

◎平成三十一年二月

大滝 保選 新聞を配りし人の自転車の轍わだち一筋初雪の朝

◎平成三十一年一月

阿部京子選 参道の日の斑を踏みて黄落に誘われゆく黄昏の道

井上管子選 求人誌派遣やパートが幅利かせ先の読めない社会となりぬ

◎平成三十年十二月

阿部京子選 山頂の標識に残る忘れ物サングラスに映る秋の白雲 ( \* )

大滝 保選 千余段杖を頼りに登り来し人に応うる夕山紅葉 ( \* )

◎平成三十年十一月

阿部京子選 谷向こうに西日を受けて照るもみじ見つつ語らう老いの背ふたつ ( \* )

◎平成三十年十月

阿部京子選 疾歩するハイカー独り馬の背の遙か彼方にはや秋の雲 ( \* )

井上管子選 戦いの痕跡残る土塁脇鳥居の陰の群れ曼珠沙華 ( \* )

大滝 保選 高原の広場の隅に読書する人の傍らをアスリートら過ぐ ( \* )

◎平成三十年八月

阿部京子選 姫沙羅の花弁に残るひと雫真夏の空の青映しおり

井上管子選 日捲りの暦のごとく政策の消えては現れ言葉が躍る

大滝 保選 高原の藪を掻き分け進む先叢むれ咲く菖蒲あやめに擦り傷忘る ( \* )

◎平成三十年六月

阿部京子選 春の暮の花散り果てし山里の黄昏時は緑のとばり ( \* )

井上管子選 お達磨の匂いやかなる江戸彼岸いにしえ人の心を映し ( \* )

大滝 保選 地方にもインバウンドの波至り行楽の地に多言語溢る ( \* )

◎平成三十年五月

阿部京子選 道の辺の祠の裏は春さなか日影うらうらカタクリ群れて ( \* )

## やまに歌壇掲載歌

( \* : 「写真短歌」の作品 ) ※ : 山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠 (2020年)

◎平成三十年四月

阿部京子選 参道の連なる日の斑に落ち椿御堂へ誘ふ標しるべとなりぬ

井上管子選 御堂へと続く参道雪積みて鳥居を前に佇み祈る ( \* )

大滝 保選 一輪の流れ着きたる雪椿堪えぬきし冬を緋に秘めており ( \* )

◎平成三十年二月

阿部京子選 霧の朝佇む岸辺凍みこごり鳥の一声静けさを裂く

井上管子選 中東で散りし友らの七回忌雪の凍む朝この地で祈る

大滝 保選 恒例の暮れの作業の近づけり竹馬の友の名リストより消せず

◎平成三十年一月

阿部京子選 一病とつき合いてはや半世紀遊行の門への錫杖とせむ

◎平成二十九年十二月

阿部京子選 散りもみじ甦らせて水の面は新たな舞台漣もなし ( \* )

井上管子選 街中の空家の庭光山とあるくらしの品の朽ちゆくが見ゆ

◎平成二十九年十一月

阿部京子選 猫じゃらし路肩に揺るる田舎道踏む松落葉足に優しき

大滝 保選 幸せのきざしか実如の二重虹雨の上がりし刈田に架かる ( \* )

◎平成二十九年十月

阿部京子選 荒沼に墨絵の時間流れきて湖の面は鏡の舞台 ( \* )

井上管子選 リリリリリ白露の宵の暗がりの音色に忘ふる仲間のリリリ

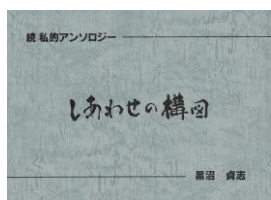
◎平成二十九年九月

阿部京子選 帰国せしパリの友との語らいの話題いまだに原震震災

井上管子選 草花を巡りて出で逢ふ酔芙蓉口遊みけり「風の盆恋歌」 ( \* )

大滝 保選 久々に友と語らふシヨットバーカクテルグラスに汗の伝ふる

以下 (平成26年3月  
~平成29年7月) の  
52首は平成29年  
11月発行の冊子「続  
私的アンソロジー-“しあわせ  
の構図”」に掲載して  
おります。



やまの歌壇掲載歌

(\*:「写真短歌」の作品) ※:山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠(2020年)

◎平成二十九年七月

大滝 保選 断捨離の成果の箱を古書店へこころ残りの帰路はたそがれ

選評 断捨離とばかりに箱一杯の古本を出したが、後悔の念も消えない。結句の

「たそがれ」は「人生の黄昏れ」の心象でもあろう。気持ちの分かる歌。

井上管子選 松蟬に蓮華つづしが色を添へ谷地沼にはや夏のよそほひ(\*)

◎平成二十九年五月

井上管子選 待ち切れぬ心たずさえ春探しぬかるみ避け行く城址の小路

大滝 保選 大根のおろしのごとき雪積る卒業式の朝の通路に

◎平成二十九年四月

阿部京子選 春の日の射し込む御堂に祈りおり耳を澄ませば雪解の瀬音

大滝 保選 目覚めれば鳥の囀り耳に入る障子明るく春をうつせり

◎平成二十九年三月

井上管子選 いつからか知己の名探す「おくやみ桐」思い湧きいづわが名の載る日

選評

歌に詠んだことはないが同じ思いをしたことがある。という人は多いはず。知己の名探すから、わが名の載る日までの軽やかな調べに、重い内容が救われる。

阿部京子選 行き暮れて辿りつきたり道の辺のコンビニにはや夕光は射す

◎平成二十九年二月

大滝 保選 新学期子らの弁当始まりぬ朝の隣家にたまご溶く音

◎平成二十九年一月

阿部京子選 生活の脚の手立てを置き去りに免許返上ひとり歩きます

井上管子選 寒風を割きて上れる噴水は幕と広がり山裾隠す(\*)

◎平成二十八年十二月

阿部京子選 小走りに園児らがゆく黄葉路あいさつ響く霜月のあさ(\*)

◎平成二十八年十一月

井上管子選 薄暗き朝の目覚めに鳩鳴けりクウクウクク秋はきており

## やまの歌壇掲載歌

(\*:「写真短歌」の作品) ※:山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠(2020年)

大滝 保選 涼求め車で走るすすき道フロントかすめあきつ群れ飛ぶ

◎平成二十八年十月

阿部京子選 新涼は行きつ戻りつ庭先の虫の世界へ秋の往還

◎平成二十八年九月

井上管子選 早苗響のテレビ映像眼に留り忽と戻りぬ少年の頃に

大滝 保選 あさまだき目覚めの一杯の白湯さゆ旨し備忘録しるす手も捗りぬ

◎平成二十八年七月

井上管子選 管理下と言われて久しきフクシマの海は黙してメディアが語る

大滝 保選 雪残る霊峰を背に芝さくら覆える堤は王朝絵巻(\*)

◎平成二十八年六月

阿部京子選 公園の軋んで揺れるブランコに遊んだ子らの気配が残る(\*)

◎平成二十八年五月

井上管子選 今の世に広まる「絆」氣に留まり「枷」の意味もつ「ほだし」の読みしる(\*)

大滝 保選 いつよりか「世話にはならぬ」が揺らぎをり遠くに暮らす娘と語れば

◎平成二十八年四月

阿部京子選 淡雪がうすく積もれる朝の道足跡ひと筋わが先にあり

井上管子選 雪の道手を取り歩む老いふたり交はす笑みにもにじむ年輪

◎平成二十八年三月

阿部京子選 雪原を一輛列車進み行く女子高生のにぎわい乗せて

選評 過疎地をつなぐローカル線の通勤通学時にのみ賑わう一輛の情景。簡潔に

まとめられた。評も簡潔に終わる。

井上管子選 屋根を打つ微かなる音に心解く雨水間近い目覚めの朝に

大滝 保選 たまさかの妻の不在に慣れぬ家事先行き老ぶむ思い湧きいず

◎平成二十八年二月

大滝 保選 起業よりはや十五年廃業の意思を固めぬ勤労感謝日

## やまに歌壇掲載歌

(\*:「写真短歌」の作品) ※:山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠(2020年)

◎平成二十七年十一月

井上管子選 いつからかシルバーウィークと呼ばれおり老いを敬う想い遠のく

◎平成二十七年十一月

阿部京子選 遠き山近き紅葉を水面に浮かべて池は秋の万華鏡(\*)

選評 遠景、近景すべてを映す水面の華やかさを「万華鏡」と捉えた。

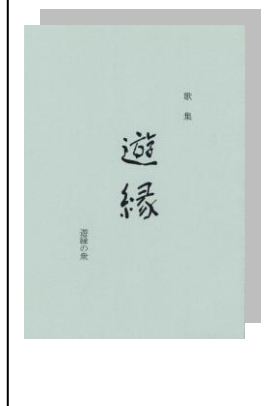
心の動きに雑念がなく直線的な描写が心地よい。

◎平成二十七年九月

井上管子選 かなかなの途切れる声にかなかなと遠くで応えるかなかなの声

大滝 保選 フェンス越しのプールで拳がる歓声に幼き日々の想い出湧き来

以下の20首は平成27年11月発行の遊縁の衆の歌集「遊縁」に掲載しております。



◎平成二十七年七月

井上管子選 祭りへと歩みを揃う親子連れすがしき初夏の山間の道(\*)

◎平成二十七年六月

阿部京子選 戦争を知らない世代が世の中を動かす社会いつか来た道

◎平成二十七年五月

井上管子選 懐かしきむかしのテンポよみがえり委ねて歩む都心の雑踏

◎平成二十七年四月

阿部京子選 ウェブサイト食のレシピが溢れおり貧しき時代遙かとなりて

◎平成二十七年三月

井上管子選 十年の歩みを話す機会得て浮かび上がりぬマイライフワーク

高橋光義選 雪いろの町を歩めば甦る遙か昔の通学之路

◎平成二十七年一月

井上管子選 枯れ野原春の彩まぼろしに黄昏早く秋が身に染む(\*)

## やまの歌壇掲載歌

( \* : 「写真短歌」の作品 ) ※ : 山形県歌人クラブ第38集年刊歌集出詠 (2020年)

高橋光義選 高齢と言えども今はタブレット連れ合い待たせて画像に残す ( \* )

◎平成二十六年十一月

井上管子選 新幹線車窓の先の錦秋に思わず止まる弁当の著

◎平成二十六年七月

井上管子選 会合を終えたる昼を軒先の燕話題に再び賑わう

高橋光義選 木漏日がいざなう小道その先の休みどころにひとの気配なし ( \* )

阿部京子選 主去りし家の庭先草繁し人の気配の露もとどめず

◎平成二十六年六月

阿部京子選 春蘭にまた逢えたねと声かけぬ春まだ浅き山路の片方 ( \* )

かたえ

高橋光義選 春寒し蝶もしばしの羽根休み山の小径の陽だまりの中 ( \* )

◎平成二十六年五月

井上管子選 春の彼岸に残雪踏みて墓掃除想い往き交う彼岸と此岸

高橋光義選 地鎮祭願い通して雪の止み友の住居に祝詞流るる

◎平成二十六年四月

阿部京子選 誰そ彼が黄昏となる万景の世界にひとりひとを想えり ( \* )

高橋光義選 精検を待つ間の長さ息苦し交わす目線に共感覚ゆ

◎平成二十六年三月

阿部京子選 風邪に臥し久々に見る夢の中母の十八番の懐かしき粥

井上管子選 冬の列車は吹雪く山あい割きて行く向う先にはフクシマの街 ( \* )